

紀美野中学校校歌にのせたい言葉

令和4年10月26日募集開始 ～ 12月1日締切

のせたい言葉	理由や思い
あきらめず	あきらめたらそこでおわりだから、さいごまでやりつづけてほしいからです。
星のきらめく	空気と自然がとてもきれいな町だから、そして子供たちが紀美野町の自然を誇りに思い大切にしていって欲しい
君の〇〇（夢、未来）	紀美野町の名前にかけて。紀美野の響きが好きだから。
満天の星はきらきら光るみんなの瞳	星降る町から
がんばれ	なにもかもがんばってほしいから
明るい	明るい学校を作りたいから
いのちのさち	生まれ来た命の尊さ 命への感謝、喜び、生命の息吹を感じます
明日の理想	人生を生きる 未来への大きな夢と希望、目標の大切を感じます
平和のねがい	個人の幸福は勿論ですが、地球上に於ける争いの無い平和社会を目指し行動の必要なことを痛感します
み佐々が原	架空の地名で、初代吉田校長が野上中学校の所在地を表現した言葉
朝に夕に長峰の山 貴志川穏しい流れ変わるなく この町 生まれたる幸 三年の学礎に 世の為 人の為	朝夕に長峰の山の起伏を眺め 妻、母、祖母、曾祖母、として貴志川の水に生きています
健やかに 堪える 親切 労る 笑顔 励む 希望 従う	毎日心がけている語句です
おがわ（小川） のかみ（野上） みさと（美里） しもこうの（下神野）	小川、野上、下神野の3つの小学校と野上、美里の2つの中学校の児童生徒が集まる新設校なのでそれぞれのルーツとなる言葉があるといいと思いました。

命を輝かせ 生きぬく力 育む	たくましく体をきたえ 生きる力を育み 命の尊さに気づき 世のため人の為 自らの命を守り 生きぬく力を育んでほしい
共に励ましあい 助けあい 学ぶわれら	悲しいとき 苦しいとき 共に励ましあい 助けあい 思いやりのある人に育ってほしい
(一番) 生石の山から さしてくる み光 あおぐ 紀美野学舎 紀美野中学 体をきたえ たくましく 生きぬく力 育みて 命輝く わざ みがく 紀美野中学 栄えあれ 栄えあれ (二番) 野上の川の清き 流れによりそいて 若き われらが にないたる 日のもと 平和の願い ひとすじに とともに学び 励ましあい 助けあい まことの道をひたすらに 学ぶわれら 紀美野中学 栄えあれ 栄えあれ	
野上 美里	野上と美里それぞれのワードは消えてほしくないから
届け楽しい思い	普段学校にいて楽しいなという思いを他の人にも届けたいから
満開の紀美野中学校	いつも笑顔満開でいられる児童がいてほしいなと思ったからです
栄え	野上小学校の時の校歌にもこの言葉が入っていたので。(野上中学校の校歌にも入っている。)
元気いっぱい	みんな元気でいてほしいからです。

1 番め 高野のふもと清い水 流れる水は やわらかに 2 番め 生石のススキザワザワと 風かぐ わしく香る町 3 番め 天文台より空仰ぎ 翼広げ飛び立 とう	「上善如水」と「川・山・空」を考慮。 「上善」とは、最も理想的な生き方。そういう生き方をしたいと願うなら、水のあり方に学べというのである。水には学ぶに足る特徴が三つある。 第一に、きわめて柔軟であることだ。四角な器に入れば四角な形になるし、丸い器に入れば丸い形になる。器なりに形を変えて、少しも逆らわない。 第二に、低いところに身を置くのは誰でもいやがることだが、水は、人の嫌がる低い所、低い所へと流れていく。つまり、すこぶる謙虚である。自分の能力や地位を誇示しようとしなない。 第三に、ものすごいエネルギーを秘めている。急流ともなれば、硬い岩石をも打ち砕いてしまう。 このように、水は柔軟、謙虚、秘めたるエネルギーの三つの特徴を持っている。人間もそれを身につけることができれば、理想の生き方に近づけるのだという。
生石 おいし 美しき里 美里 野上の荘の岩清水 のかみ のかみ あ〜あ われらが 母校 きみの中	ふるさとの土地に愛着を持って、それぞれの道に夢と希望を持って進んで欲しい。自分を大切に人を大切に思う心をどんなことがあっても忘れないで欲しい。
地球（ほし）の童（こ）たち 季節（とき）の童たち	星に代表される紀美野町とその町の未来を旅する子供達をイメージしました。
君の夢 君の未来 紀美野の空へ	高校を卒業すると故郷を離れる子供達が多い中、「きみの」を繰り返すことで自分の故郷はここなんだと、故郷の青空の美しさを心に刻みつけてほしい。
ごめんねよりありがとうと言い合える仲間	ごめんねと言われるよりも、ありがとうと言われる方が嬉しいから。 言った人もあまり罪悪感が無いと思うから。

紀美野町にいる生き物の名前を入れていた だきたいです。 クマタカ、ホオジロ、トラツグミ、キセキ レイ、ヤマドリ、フクロウ、イカル 夏鳥オオルリ、キビタキ、アオバズク、サ シバ 冬鳥ルリビタキ、ヒレンジャク、ノスリ など、美しい里山や溪流が目浮かぶよう な生き物の名前を希望します。	・美里町には前田亥津二さんという鳥を始め、自然を大好きな先生がおられました。私がこの方を知ったのは、大人になり、仕事について、県外から戻って、故郷の海南市ではなく、紀美野町の親戚の空き家へ移り住んでからのことです。前田先生を知ったときには既に亡くなられた後で、お話したかったなあ…と、とても残念に思いました。 ・前田先生なのこのされた記事や本「ブラインドの窓から」、関わったことのある方からの話を聞いていると、前田先生が里山の生き物をよく観察されていて、身近な生き物を知る面白さやその存在の儚さをたくさんの方に少しずつ伝えておられるように感じられました。とても素敵なお方だったのだと思います。 ・今、自然に対する人の関わり方は少しずつ変わり、技術の発展の輝かしさとはうらはらに、世界中の情報や価値観に囲まれて、自分が今生きる身の回りのもの・ことの良さや大切さに気付きにくいのではないかと思います。 ・紀美野町にある自然を今後大切に守り育むために、この地に特徴的な生き物の名前を通じて、子供たちが愛着を持ったり、紀美野町の文化や自然を知るきっかけになればと思います。 ・鳥の名前を挙げた理由は、前田先生が鳥好きであったことに加えて、声を出さない山や川の代わりに、「ここで生きてるんだよー」と声を上げているように思われ、鳥の声を聴くことで自然の声を聴き、理解し、ヒトとして正しく生きることにつながる、みたいな感じに伝えられればいいなと思ったからです。
美しい野山に囲まれて 唯一歩（ただいっぽ）	・美里の美と野上の野を入れてみました。 紀美野町のいいところは自然がたくさんあるところだとおもうことで、たくさんの自然に触れながら勉強以外の大切なことも学べる学校であればいいなあと思いました。 ・今しかやれない「唯一」と歩くことの一步をかけた造語

櫨
榧
棕櫚

- ・紀美野町は野上と美里の合併によりできた町です。
- ・その二つの地域は歴史的に高野寺領であった美里地区と、紀州藩の野上地区という大きな違いがあり、一つの町になる。というのは歴史的背景を見ても容易ではありません。しかし、2つの地域は山の樹に支えられた。という共通点があると感じます。
- ・紀美野町町木の『榧』は囲碁盤などに使われる超高級木材としても有名ですが、空海の時代にもたらされた帰化植物で、その種からとれる油は冬の灯明用油として主に美里地区において高野山に年貢として納めていました。紀美野町は現在でも全国トップクラスの自生率を誇り、県下最大の榧も美里地区にあります。
- ・『櫨』はその実からモクロウが作られ主に和蠟燭（びんつけ油等）の材料にするために栽培されていた樹です。吉宗公の時代に和歌山にもたらされ、江戸時代後期に最高級品種ブドウハゼが志賀野で見つかったからは、住民にとって貴重な現金収入源になっていました。
- ・民の中には「この木のおかげで女学校を卒業できた」と語る古老もいます。また、非常に美しい紅葉をする樹としても知られており現在廃校になった志賀野小学校の校歌にも歌われていました。地域の方にとっても思い入れの深い樹です。
- ・『棕櫚』は語るまでもなく野上谷の生業を支えた樹です。
- ・校歌はいつまでも記憶に残る歌です。
- ・どこでも、誰にでも共通する内容の歌詞だけでなく、大人になってからも故郷に思いを馳せることのできる内容を入れていただければ幸甚です。
- ・もし可能であれば野上中学校と美里中学校の在校生が探求学習の一環として自分たちの地域を調べて歌詞の素材を提供する。という感じで作詞にかかわることができればとても素敵だと思います。